

大館市総合教育会議 会 議 録

令和5年10月開催

令和5年度 第1回大館市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和5年10月31日 火曜日

開会 15時30分 閉会 17時

2 会 場 市役所本庁舎 第1委員会室

3 出席委員	市長	福 原 淳 嗣
	教育長	高 橋 善 之
	委員	山 田 和 人
	委員	根 田 穂美子
	委員	工 藤 啓 子
	委員	小笠原 正 卓

4 事務局	教育次長	成 田 浩 司
	教育監	長 岐 公 二
	教育総務課長	小松原 功 秀
	教育総務課長補佐	宮 崎 史 人
	学校教育課長	鈴 木 明
	学校教育課長補佐	北 林 香 子
	学校教育課長補佐	工 藤 貴 胤
	生涯学習課長	糸 屋 みさえ
	生涯学習課長補佐	羽 沢 秀 則
	中央公民館長	外 館 志
	歴史文化課長	小 松 工
	歴史文化課長補佐	篠 村 朋 子

5 協議事項 (1) 次年度以降の重点的に講ずべき施策について

6 会議内容

○成田教育次長

ただいまから、令和5年度第1回大館市総合教育会議を開会いたします。

本日の本会議構成員の皆様の出席状況は、全員出席でございます。

まず、会議の公開の取り扱いについてお諮りいたします。

本日は、傍聴希望者はありませんが、報道関係者の取材希望が1社いらっしゃいます。

本日の会議につきましては、非公開とすべき事項はないものと考えますので、会議

を公開とし、傍聴を許可したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

それでは、本日の会議は公開とさせていただきます。

はじめに、開会に当たりまして、当会議の招集者であります福原市長が御挨拶を申し上げます。

○福原市長

改めまして、委員の先生方におかれましては、時節柄お忙しい中にもかかわらず、全員参加していただきまして本当にありがとうございます。

皆様ご存じのとおり、この総合教育会議は私の強い思い入れがあって、進行が当初と違って私も参加するという形をとっています。

通り一遍の挨拶をする気はありませんが、今日は少し違います。

ご存じの通り私の父は教員で絶命しました。教育に命を張って、あっという間に亡くなってしまいました。私が大学生だった当時、父が倒れ病院へ行くと父は毎朝学校に行こうとしました。私は教育に興味をもって教育政策を学生として勉強しました。それが今公約にもある北欧スタイルです。

OECD(経済協力開発機構)の中で、これから潜在的成長力を持っている北欧がどんどん上位に出てくる。子どもたちの高い学力と学びたい気持ち、働きたいという気持ちを育てる。そこに年齢や性別は関係ないのです。

隣にロシアという強国があったとしても、人に投資するという考え方を学ぶべきだという方向性を学生時代に得ていました。それを確信し、政策として進めるべきだと思ったのは、高橋教育長が掲げた「ふるさとキャリア教育」です。

正直に言うと、今の“霞が関”の仕組みというのは、明治政府が立ち上がった時の富国強兵そのままなのです。昨日、新聞に載ったある高校の校長の「さらば東大一直線」という記事が載っていました。教え・学び・育つということは競争ではなく個々の個性を地域で育てることが本当の学びだと。

私はふるさとキャリア教育に光を見ました。市長に就任させていただいて以来、高橋教育長のカリキュラムについて、あれこれ言ったことはひとつもありませんが、新しい基軸として、大館の子どもたちが企業に実際に行き、大館にしながら自分の未来の姿を感じ取ること、学校や大館盆地だけでなく、私たち大人の感性が豊かであれば、大館から世界中が学びの場所になるのです。

私は明日から欧州連合日本政府代表部の特命全権大使と在ベルギー王国特命全権大使に表敬訪問します。フランスのアルザス地方ですが、ヨーロッパの工業製品輸出高の半分以上を出す工業地帯で日本と160年のつながりがあります。

特に名古屋市で自動車メーカーを基軸とする中京地区とテキスタイル繊維でのつながりがあります。日本・ヨーロッパ・アニメミュージアムという博物館をオープンさせるのですが、そのキャラクターとして世界的な注目を浴びている秋田犬のふるさ

と大館と連携したいということで協定を結びました。

また、市内企業の拠点がベルギーのメヘレン市にあります。メヘレン市はベルギーシェパード発祥の地であって、世界ケンネルクラブの本部があります。本部の人たちがぜひ秋田犬のふるさとの大館市長を歓迎したいということでした。

また、アントワープ市は「フランダースの犬」のふるさとです。アントワープ市と渋谷と大館と忠犬ハチ公の物語を合わせることを通じて動物と人と自然の共生の形という枠組みを作ったら、今度は子どもたちに行ってほしいと思います。

本質は、私たちがハチ公の物語を世界平和の切り札として使えるか、そういう学びを私たち大人がしてきているかだと思います。

今日はよろしくお願いします。

○成田教育次長

ありがとうございました。

これより本会議の進行は、大館市総合教育会議運営要綱の規定により市長が議長と定められていることから、福原市長にお願いいたします。

○福原市長

それでは早速進めます。

円滑なご審議にご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

次第に従いまして、高橋教育長よりごあいさつをお願いいたします。

○高橋教育長

福原市長には長年に渡って、大館教育に対する深いご理解とご支援を賜りましてありがとうございます。

今の市長のお話を聞いて、大館ふるさとキャリア教育のコンセプトは、「大館盆地を学び舎に、市民一人ひとりを先生に」であったのですが、次年度から「世界中を学び舎に、世界市民を先生に」というベクトルで考えていきたいと思います。

大館ふるさとキャリア教育の重点といっても重点はとうに決まっており、今お話をくださった少数精鋭のまち大館を構築する未来大館市民の育成、この1点で14年間やってきました。教育の成果は数値ではなく、子どもたちの姿、若者の姿として語るのが本当の教育の姿だと思いますので、今日はそういう形で報告します。

私たちの期待を突き抜けて育っていく人材がたくさん出ています。昨年度は国際イノベーションコンテストで大学生たちを破って優勝した市内の高校生が、今年は世界大会に出てドイツの大学に続いて準優勝という成果を残しています。

スポーツでも市立中学校の3年生が全日本BMXフリースタイル選手権を3大会とも優勝し、来年はフランスで行われる世界大会に出場します。

相撲では市立中学校の出身者がインターハイで優勝し、小学校6年生も3つの小学校大会で全て優勝しています。彼ら彼女らを支えているスピリッツがしっかりしてい

ないと勝てません。

また、市立中学校の特別支援の子どもたちは学校農園をやっていて、種苗交換会で昨年、一昨年と最高賞をいただきました。それにとどまらず、今年は校門の脇に無人販売所を作り近所の方々に買っていただくという活動もしました。

彼らのやっていることは自立のためのキャリア教育の勉強になるし、周りの人も幸せにするという活動です。

課題である大館の未来を支えていく不可欠な人材、これは医師と教師です。これを意図的に育成しようと7、8年やっています。先日、病院事務長から来年度に研修医として戻ってくる若者9人のうち3人が大館出身者とのことで、そういう時代に入っています。

教育に関しても、「教師ミニミニ体験」という秋田大学と市内の県立高校と教育委員会で始めていたものを体験した子どもたちが、教師として戻り始めました。次年度から20人レベルで毎年戻ってくる見込みになっています。

ふるさとキャリア教育で育った中からそういう人材が戻ってきて、しかも教師になって、今の子どもたちにふるさとキャリア教育を伝えていくという、いいスパイラルに入ります。未来大館市民の育成というコンセプトの教育は数十年進化し続けるだろうと喜んでいます。

最後の報告ですが、2週間前に7、8年前の大館子どもサミットの委員長をやった大学生から電話があり、都内の大学3年生が40人位いる総合政策科で教育に関するゼミの地域フィールド合宿を来年の3月に大館でやりたいとあり、そこで大館のふるさとキャリア教育を学び、大館の活性化に役立てたいとのことで受けました。

5年位前になりますが、愛知県の大学が視察に来たときに、大学の先生がこういう言葉を残していきました。「現代の子どもたちは、今と自分にこだわって生きている、けども大館の子どもたちは周りに目を向け未来を見つめて成長している、だから成長のスピードとスケールが格段に違う」という言葉をいただきました。

まさにその通りだと思うと同時に観点を変えてみると、市長が今まで行ってきた施策がそれになります。今市長が構想している未来大館を構築する人材を育ててまいりたいと思います。

○福原市長

続いて4番の協議事項ですが、協議に入る前に事務局から発言を求められていますので許可します。

○成田教育次長

議事の進行は議長である市長が行うとされておりますが、市長、教育長、教育委員の皆様には十分議論していただくため、事務局が進行し皆様に協議をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○成田教育次長

それでは、暫時進行は事務局が務めさせていただきます。

なお、本日の終了は5時とさせていただきます。

ご協力をお願いいたします。

それでは、「次年度以降の重点的に講ずべき施策について」を順次ご説明申し上げます。

始めに高橋教育長から「大館ふるさとキャリア教育戦略の重点」についてご説明をお願いします。

(令和6年度「大館ふるさとキャリア教育」戦略の重点について、高橋教育長が説明)

○高橋教育長

基本的なグランドデザインについては昨年度と同じですが、「未来大館市民育成」に関して、「大館学び大学」の形についてももう少し改定しながら進化又は適応するものにしていく段階になったと考えています。

「障がい者の生涯学習」につきましては、心のバリアフリーを進めるということをスポーツ振興課からボッチャのセットを各学校にいただいたもので実際に交流を進めていきたいと考えています。

「幼保小架け橋プログラム」については3年目に入りますが、きわめて効果が高く、今年いろんな学校の授業を視察していますが、どこの学校も1年生が素晴らしいです。就学前教育と小学校教育が連結しているからこそその成果だと思っています。

「未来人財プロジェクト」は、世界への架け橋を具体的な形で進めることができたと思います。

「ICTを活用した学びの大館最適化」は、城南小学校がモデル校として3年やってきて今日が研究会でした。授業を見てきましたが、完全に大館型授業の中にタブレットや電子黒板が調和している状態で全く違和感なく使いこなしていました。これからの時代の人材育成に欠かせないもので成果が着実に出ています。

「R（令和）型コミュニティスクール」は2年目になりますが、それまでふるさとキャリア教育をやっているのので、地域と学校の一体化が非常にスムーズにできています。

「児童・生徒の教育パートナー化」ということで、つまり教育の主体は子どもたちであるということ、そう唱えられてきたけれど具体的に学校教育活動とか、授業を作る教師と子どもたちはパートナーであるという考え方ですので、授業中に教師の助手というか、ミニミニ先生という形で子どもたちの中にもタブレットの使い方に慣れてない子どもに教えてあげるといった行動が、当たり前のようにできるようになりましたのでこれも進めてまいります。

「イーハトーヴ連邦」ということで、大館のふるさとキャリア教育に共鳴する都道府県市町村、いろいろな団体と教育交流を進めてまいります。今年度だけでも研修視

察に訪れた全国の方々は1千名を超えています。できればアルザス地方ともつながっていくことも視野に入れていきます。

来年度の11月1日、2日に全国小学校キャリア教育研究協議会研究大会を大館市で開催したいと要望がありました。これも積極的に受け、どんどん大館教育を全国へ広げてまいりたいと考えています。

○成田教育次長

ありがとうございました。

ただ今のテーマについて協議したいと思います。ご意見等ある方は挙手をお願いします。

○山田委員

一言、市長と教育長に感謝申し上げます。先ほどもお話がありましたように、なぜ世界を標準にしなければならないのか、そして、なぜ大館の子どもたちは世界を標準にできる子どもたちが育ってきているのか、実はその鍵が先ほどの授業にありました。

私は社会の授業を拝見してきましたが、通常であればICTをどうやって使っていくかが目的になるのですが、完全に手段として使いこなしていました。これは3年目の成果だと思います。

その中の授業を見た時に、これなら世界標準になっていくのだろうと感じました。それは人の幸せにつながる授業だからです。そういう発想や考え方をこと細かに先生方が迫ってくれるからです。子どもたちと先生方の議論が深まれば、そこへ行くにはあと少しなのです。そういうのが大館にはたくさんあります。それが今の大館の形を作っているものであろうし、そこまでいけば市長が目指す世界標準を目指しても全く問題ないと思います。

やっと大館からワールドスタンダード、ユニバーサルスタンダードがここから築ける可能性があるかもしれません。

もう一つ具体的な感想として、タブレットを子どもたちが2回落としました。ところが落としたときに全ての子どもたちが「大丈夫？」というのです。つまり周りのことを気にしている全ての子どもたちが気にかけてくれているのです。そういう環境や関係性が世界標準につながっているし、世界平和へとつながってくるのだろう。

子どもたちが力強く意識を持ちつつあると感じました。

○根田委員

私も城南小学校のICT授業に行って、4年生の国語を拝見させていただきました。

適格化されているものを子どもたちが自由に使っていて、隣の子が戸惑っていると、すぐ隣の子が自然に教えたりお世話をする。また、一人の子どもが自分の考えを述べたときに他の子どもたちの共感の仕方が教師と一体化し、先生もひっそりとうなずいたり電子黒板の中で子どもたちの全てのことが一斉に分かるようになっていて、さら

に便利なツールだと思いました。また、子どもたちが自由にＩＣＴを使いこなしていました。雰囲気的にも問題がなく、一体化していることに驚きました。

教育長が話されていた教育パートナー化に関しては子どもが主体になって、先生と子どもがパートナーになって教室の中を運営していくことに私たちの感覚では考えられなかったのですが、今日の授業では現実的に分かりました。

先生のいいところは、教えようとせず、子どもたちが自然に自分の意見を出してくる、他の子どももまた、それに影響を受けて出してくるなど、教室の中が一体となって、デジタルであるアナログであることが全然関係なく、学校生活がごく自然に心地よい感じでした。

子どもたちの成長もさることながら、子どもたちを支えている先生方の陰の力のすごさをその中に感じました。先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

○工藤委員

今日は城南小学校の授業を久しぶりに見させていただきました。未来の子どもたちを見させてもらったなと感じました。

ＩＣＴを本当にツールとして活用している。できる、できないではなく、普通に使いこなしていると感じましたし、昨年の研究会も見させてもらったのですが、１年経って進化したのが、使うことが目的になっていなく、使うことによってさらに授業を進化させていると感じました。

本当に機器がすばらしく、先生方の教具の準備の多忙感の削減にもつながっていると思うし、効果的な使い方もでき時短にもなっています。１時間の授業の中でデータ処理に時間を取られないで、その後のシンクタイムに十分時間を取れるし、授業自体の中身がレベルアップにつながっています。大変お金の掛かることでしたが、ありがたいことだと思っています。

普段言われていることで、不易なことだと思うのですが、大館で言えば一人たりとも置き去りにしないとか、いろんな子どもたちの個性をいろんな形で伸ばしていくとか、基本的には狙いを達成するとか、そういったところは変わらず頑張っていくかなければいけないなと思っています。

○小笠原委員

２つの視点からですが、保護者として大館にいる子が中２、小６の子どもがいます。整えていただいたＩＣＴデバイスを彼らが預かっているのですが、どうなっているかをたまに聞いてみるのですが、「この授業が楽しかった」、「今日はこれが勉強になった」と言っています。

中学校になってくると授業内容が難しくなってきた、上に到達する目標が難しく、追いつかないことがあるようなのですが、それでも次に向かう課題が見つかったとかを明確に話してくれるようになりました。

これもやはり、授業中に作業に忙殺されるのではなく、本当に学びに近づいていく

ということが彼らにとって効率的に入ってくる。ということを考えると、去年あれだけお金を使って整えていただいたことは子どもにとってありがたいことだと思いました。

今日、研究会の分科会で先生方と一緒にディスカッションに参加させていただいたのですが、若い先生方が自分の手足のように、鉛筆のように、彼らこそデバイスを使いこなそうとしていて、でもまだ、課題はたくさんある。これをしたらこうなるとか、15分くらいの時間で、先生の授業がどうだったかを協議するディスカッションだったのですが、せん越ながら上からの物言いですけど、先生方もスキルだけでなくディスカッションする能力とか、子どもたちを導いていく能力とかの成長にもつながっているのだなと思いました。

ふるさとキャリア教育ここに至りという感覚もありますが、それからまだ伸びるのかと嬉しく頼もしく感じました。そういう意味ではこれから市長のフィールドはもっと広がっていくと思うのですが、その広がっていくフィールドで、どうか我が未来大館市民を引っ張って、チャンスをとくさん与えてほしいと思います。

アルザス、中京工業地帯、南種子町など、外に出て行って学ぶ機会をとくさんいただいています。そういうところも含めてこれからも期待しながら我々も子育てしていきたいと思います。

○成田教育次長

ありがとうございます。

では、市長より発言をお願いいたします。

○福原市長

特にありません。

○山田委員

今、聞きながら感じたことがありました。ハチ公生誕100年ですが、皆さんご承知と思いますが、パティキュラリズム（特殊主義）という言葉があります。反対語はユニバーサリズム（普遍主義）です。ふるさとキャリア教育はどちらかというところから始まった。それがひいてはユニバーサリズムにつながってくる。

自分たちの頃はユニバーサリズムばかり教えられました。「こうやれば世界標準だ」、「こうやれば世界につながる」などと。ところが自分たちの世代は世界につながる者がいなくて、結局、地元のことを知る。自分が何たるかを知る。そういうことが結局世界とつながれる道であるということを今子どもたちが証明してくれていると思うのです。これがふるさとキャリア教育の根本のところだと私は確信しています。

これは、まだまだ道半ばだと思うのですが、もっとそういう子どもたちがふるさとに帰ってきて、フィードバックしてくれば、子どもたちも大人たちもどんどん変わり、

それが教育から世の中を変える力になってくるのだろーと思ひます。

○成田教育次長

ありがとうございます。

では、次のテーマに移ります。各課4つのテーマがござひますが、一括で説明させていただいた後に各委員からご意見を伺いたひと思ひます。それでは、最初に教育総務課がご説明させていただきます。

（「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」について、1から3まで小松原教育総務課長が説明）

（「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」について、1から3まで鈴木学校教育課長が説明）

（「ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援」について、1から2まで糸屋生涯学習課長が説明、3は外館中央公民館長が説明）

（「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」について、1から2まで小松歴史文化課長が説明）

○成田教育次長

以上、各課のテーマを説明いただきました。ただ今のテーマにつきまして、協議をさせていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

ご意見、ご質問のある方は、挙手によりご発言をお願ひいたします。

小笠原委員お願ひいたします。

○小笠原委員

I C Tに関しては、今日、城南小学校で視察しましたが、学校の環境をソフトとして先生方のスキルなど持っていくのは可能なのですが、そこにはどうしてもハードが伴うものだと思います。これはどうしても切り離せないものなので、これからは財政的な支援、市長部局からの手厚いサポートをぜひお願ひしたいと同時に、財源が限られることであれば、民間の何かを活用する。

ガバメントクラウドファンディングという話もでしたが、そういうのを支えたり、手を上げられる企業もあるのではと思ひましたし、大館市民としてはそうでありたいと思ひますので、そういうところのサポートもお願ひしたいと思ひます。

○根田委員

歴史文化課ですが、大館で縄文土器展を拝見し、素晴らしいと思いましたが、市民の皆さんにあまり知られていないということが残念なことだと思います。この中で数十年前振りに発掘された板状の土偶の肩の部分で小さなものだったのですが、これは大館市にとっては数十年ぶりの新しい土偶の発見と伺い、大変素晴らしいことだと思うのです。もっと市民の皆さんに知ってもらいたいと思います。

発掘されたことはすごいことだと思うし、見つけてくれた学芸員の方にも感謝したいし、大館市の財産でもあります。それを大きく報道してもらって、市民の皆さんと共有したいという気持ちがあります。

今年は郷土博物館でいろいろなことをやられてよかったと思います。例えば、鳥潟博士の記念講演会、大館佐竹家資料のお披露目展、常陸大宮市への貸し出しがきっかけで初めて公開したのですが、きっかけが常陸大宮市からの依頼だったことが少し残念でした。市民にとって大きな財産なので、一緒に財産を守っていくという気持ちも踏まえて市民の皆さんにも浸透していったほしいと思います。

また、とても嬉しいことだと思うのですが、秋田県立鳳鳴高校の生物部の皆さんが大館の大切なニホンザリガニの世話や研究をしていくという地元に関差した研究はずっと続けてほしいし、後輩に受け継がれていって守ってほしいという願いが強いです。これをずっと見守ってほしいと思います。

わくわくサイエンスとか、いろいろなことやっていることは、博物館を見学するよい機会なので、もう少し積極的にたくさん子どもたちが体験できるような、博物館に足を運べるような企画を考えていただきたいといつも思っているところです。

○工藤委員

生涯学習について、人生100年時代ということで、これから生涯学習の推進というものが求められていくのかなと思います。学び続ける大人の姿が子どもたちにとっても魅力ある大館の姿に映るのではないのかなと思います。ただ、いろいろな形で学びたいと老若男女、皆さん思っている方が多いと思うのです。

ただ、学ぶ場がないとか、分からないとかが現状ではないかと思いますので、先ほどお話ありましたように生涯学習課、公民館、歴史文化課と連携しながら、魅力ある誰でも気軽に学べる場を作っていただきたい、そして情報発信していただきたいです。

○山田委員

教育総務課と市長に教育予算を毎年確保していただきありがたいと思っております。というのは安心安全な市民生活、子どもたちの生活のインフラの整備が必要不可欠な訳です。ところが今維持のためにどうしても予算が必要になってきている。だんだん設備が老朽化し、どんどんメンテナンスが必要になってくるので、先手、先手でしっかりとしたメンテナンスをしていただいて、一回財政課に蹴られた場合でもプランA、プランBという形で給食でもライフラインでもすぐ維持できるような体制を整

えていただきたいです。

○成田教育次長

ありがとうございました。

委員の皆様からご意見をいただきました。

市長からご意見ございませんか。

○福原市長

今の山田委員と小笠原委員のハードの話ですが、小松課長が建設部にいて歴史まちづくりを引っ張ってきたので、今まちづくりの観点からいくと、教育長がよくおっしゃるように学校はコミュニティの核です。そういう機能があることからできる大館のまちづくりの青写真を描いたことがあるだろうか、たぶんないと思います。

およそ地方都市においては都市計画法か農地法の2つの法律でほとんど決められていて、学校施設がここにあることでできる動線とか、そういう話からモビの話になってきます。

私は学校が、将来大雨が降ったときや地震、火災が起きたときに、国土強靱化のような役割からも重要な場所なのだとということにもう一度重きを置いて、ただ単に教育する施設だからではなくてやっていくべきではないかと思っています。

そこに今土木課がトライしている包括的民間委託があります。これはどういうことかということと道路を直します、これが100万円の工事だったとして、実際携わる市の職員の人件費を足すと100万円の工事を発注するのに300万円税金で使う。

これを年間何千件とやっている。それを3千件あるのだったら、6回の契約で終わるようにしよう。その代わり単年度ではなく、5年、7年、10年でという考え方です。そうすると今のまちづくりのコンセプトに包括的民間委託を出せば、小笠原委員が言ったガバメントクラウドファンディングが新しい資金調達でビジョンを書けます。

あと、ICTのことに関して私は全然心配していません。私と教育長で共有しているのは、ある新聞に書いてあった「ICT授業は全部エンジニアにさせればいい」という記事ですが、エンジニアに学校教育ができるはずがありません。これはあくまでもツールなのです。

会議で言っているのはこのプログラミングですよね、英語です、アルゴリズムです。アルゴリズムは方程式を解くと同じで何パターンしかない。その何パターンを学べばこんなに簡単なものなのかということです。

結局、その人の持っている関心の幅を広げるために歴史教育があるのだし、社会教育と学校教育を合わせる公民館の役わりがそこにあるのではないかと思います。

あと、小笠原委員の熱い思いに私は絶対に応えます。私が大学生でバブル崩壊のときに有名な映画監督が来日し、なぜ日本にくるのか聞いたときに世界中で昔話とおとぎ話と民話が一番多いのは日本なのだと。今ハリウッドは行き詰っていてパターン化

した映画しか作れていないと。何分後にはバイオレンス、何分後には性的描写でしか観客が集められなくなっているか、古代ローマの妄想に頼った映画しか作れなくなっている。

日本語ぐらいボキャブラリー、語彙数が多い言語はないからこそ日本は芳醇な物語をたくさん作れるのだろうと。私たちはそこを学びに来ているのだと。

日本人だけがユニバーサルな世界をビジュアル化に成功しているというのです。アメリカはものまねをしているだけで日本人が持っているイマジネーション、想像力のすごさを過小評価しない方がいいと思います。世界中の人々を幸せにするだけのものを先人から受け継いでいます。

縄文1万年、その間に私たちの先人がしたのは、オノマトペです。あれは日本人しか作れない。それは私たちの先人が豊かな自然現象に森羅万象をもって、一つ一つ言葉にしてきたからなのです。

○成田教育次長

ありがとうございました。

教育長から何かありませんか。

○高橋教育長

ふるさとキャリア教育のふるさとの出発点は、まさに縄文の生活様式なりスピリッツを受け継いだ蝦夷（エミシ）の世界に入って、そこが大館人のDNAのほとんどというか、1万年そういうふうな世界で築き上げた文化やスピリッツが当然私たちのDNAの中に残っています。

その精神が現代世界に当てはめれば、世界平和や他を知る生き方とか、そういうのはまさにこれから子どもたちが未来を生きていくために、いろんな彼らを支えるスピリッツとなっていくと思います。そういう点も大事にしていきたいと思います。

○成田教育次長

皆様から、さまざまなご意見、ご提案をいただきましたが、予定された時刻になりましたので、この辺で協議を終了させていただきたいと思います。

では、議事進行を議長に戻します。議長よろしく願いいたします。

○福原市長

改めて思うのですが、おそらく類似の市町村でこういう形で総合教育会議をやっているところはないと思います。でもこれが大館です。私がいなくなっても教育委員の方々や教育委員会の皆様で、今まで以上に世界に羽ばたく未来大館市民を作ってくれるように心から祈念して、私の議長としての挨拶とさせていただきます。

今日は本当にありがとうございました。

○成田教育次長

本日の会議で協議された内容、意見、ご提案、示された方向性を踏まえまして精査したうえで、今後の施策を実行してまいりたいと思います。

以上をもって、令和5年度第1回総合教育会議を閉会いたします。

お疲れ様でした。